

コリアン・ボエムのタペ 1

思い出のクリフォード 5

日日読書 5

メモランダム・本のデザイン 6

昭和残照 8

はれのち句もり 9

続・ぼくの映画館は家から5分 10

N'S COLUMN 11

魚の環世界 12

付録

カメラと歩く

MY KID'S DIARY

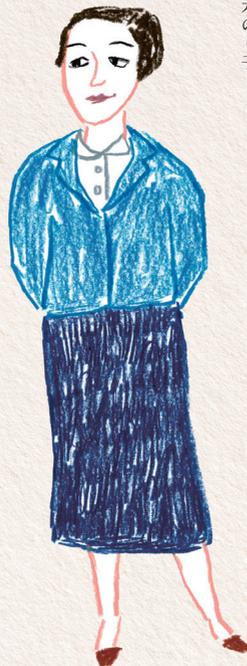
わすれねばこそ こころもくるふ、  
ならば一生をたゞ生きなされ  
生きりゃ わすれる日もござる。

金素月 訳金素雲

いかなる国の言語にも遂に組み伏せられなかった  
勁いアルタイ語系の一つの精髓へ――

少しでも近づきたいと あらゆる努力を払い  
その美しい言語の森へと入ってゆきます

茨木のり子



沢知恵 うたと朗読  
李昌燮 チヤング

岡山県立図書館開館20周年記念  
ライブラリーコンサート

コリアン・ポエムの夕べ  
金素雲と茨木のり子

2024年9月24日(火)

18:00開場 18:30開演 (19:40終演予定)

岡山県立図書館1階閲覧室

入場無料／抽選で100名様 未就学児は入れません

(お問い合わせ)  
●岡山県立図書館 電話 (086) 224-1286 メール libnet@libnet.pref.okayama.jp  
●コモエスタ メール info@comocosta.co.jp

- お申し込みは県立図書館のホームページか来館にて
- コモエスタでは、経費のためのクオカードファンディングをします。よろしく願います



コモエスタ  
ホームページ



県立図書館  
ホームページ

(主催)  
コモエスタ 岡山県立図書館

Illustration by Shimoda Ayumi Design by Akahar Haruka and Kazuo Jitschi

『コリアン・ポエムの夕べ  
金素雲と茨木のり子』のデザイン  
イラストレーション……霜田あゆ美

大きな詩人ふたり  
霜田あゆ美 イラストレーター

チラシ表

わすれねばこそ こころもくるふ、  
ならば一生をたゞ生きなされ  
生きりゃ わすれる日もござる。

金素月 訳金素雲

いかなる国の言語にも遂に組み伏せられなかった  
勁いアルタイ語系の一つの精髓へ――

少しでも近づきたいと あらゆる努力を払い  
その美しい言語の森へと入ってゆきます

茨木のり子



2024年9月24日(火)

18:00開場 18:30開演 (19:40終演予定)

岡山県立図書館1階閲覧室

入場無料／抽選で100名様 未就学児は入れません

(お問い合わせ)  
●岡山県立図書館  
電話 (086) 224-1286 メール libnet@libnet.pref.okayama.jp  
●コモエスタ メール info@comocosta.co.jp

(主催) 岡山県立図書館 コモエスタ

岡山県立図書館開館20周年記念  
コリアン・ポエムの夕べ  
金素雲と茨木のり子  
沢知恵 うたと朗読  
李昌燮 チヤング



「すごくへたに描いてください。こどもが描く絵くらい」と日下さんが言って、  
なーんだ、わたしの得意分野だよと思った。沢さんによると、茨木のり子  
さんは骨格のしっかりしたすごく大きな女性、金素雲さんは身長はそれほどでもない  
が風格があり大きく見えたとのこと。茨木さんの凛々しい立ち姿はなんとなく想像出来た。  
素雲さんを描くの助けになったのは1980年放送のドキュメンタリー番組  
「鳳仙花・近く遥かな歌声」。ところどころに素雲さんのやさしく穏やかな佇まいが見  
られる。ラフスケッチの上に紙を置き、オイルパステルを軽くにぎってトレースする。  
こどものように描こうとすると作画的になってしまうので「普通」に描いてみよう。  
出来上がった絵をBGXさんに「違ったら描き直します」と一言添えて送る。へたの  
塩梅はこれくらいいいのか？ いつもわたしは自信がないのだ。



スタン・ゲッツ Stan Getz  
1927-1991

## 森英二郎 思い出のクリフォード ⑬

**ボ** サ・ノヴァという音楽を初めて聴いたのはジャズ・テナー・サクスの名手、スタン・ゲッツとブラジルの歌手でギタリストのジョアン・ジルベルトの「ゲッツ/ジルベルト」というレコード(1964年)だと思う。その中のジョアン・ジルベルトの嫁さんのアストラッド・ジルベルトが歌った「イパネマの娘」が大ヒットして日本中にボサ・ノヴァブームが起きた。この欄で以前、チェット・ベイカーの最後のアルバム「レッツ・ゲット・ロスト」が僕が買った最後のレコードである、と書いたけど、スタン・ゲッツが麻薬やアルコール中毒の後、癌による長い闘病生活の中、亡くなる3ヶ月前に録音した2枚組ライブ・アルバム「ピープル・タイム」(ボサ・ノヴァではない)は僕が買った最初のCDです。

もり・えいじろう 1948年、京都府生まれ。関西のタウン情報誌「プレイガイドジャーナル」の表紙、野外コンサート「春一番」ポスター、『荷風と東京「断腸亭日乗」私註』(川本三郎 著)、絵本『おとうさんのうまれた うみべのまちへ』など。

おおいし・よしたか 1974年、京都府生まれ。京都嵯峨嵐山にある古書店 London Books店主。文芸書を中心に、人文書、美術書、絵本、サブカルチャーなどを扱う。観光客と地元の人に支えられ営業を続ける。

London Books  
616-8366 京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町22

**角** 田さんの小説を読んだことがなかったが、先日文芸誌に載っていた短編を読んだら惹き込まれ、読み終わった時には安心してた。他にも彼女の小説を読みたくなり買ったのが本書。9月の鳥取旅行が台風で止めになった連休、自室に籠り読み耽った。

主人公の女性が、亡き祖母が物書きを志していたことを知り、自分も小説を書くようになり作家となる。長く付き合う彼氏は学生時代から業界人として活躍するが、やがて彼女への態度を変容させる……。筋立てとしては特別めずらしいものではない。

角田作品は、ずっと読み続けていたい、という心地になる。筋を追う面白さというよりも、作品世界に呑み込まれる幸福感がある。登場人物の年齢性別職業等にかかわらず、幸不幸にかかわらず、人生というものの感触をありありと伝える。それは氏の文章が過不足ない正確さで紡がれているから。読む喜びに浸らされる。

角田光代  
『私のなかの彼女』  
新潮文庫/2016年

## 日日読書 大西良貴

31

## 夢を後押しする デザイン 沢知恵

**岡** 山に引越して10年。子どもが通う学校の図書室には専属の司書がいて、夏休みも開いていることに驚きました。戦後まもなく、ある校長先生がPTAに呼びかけて、日本が二度と戦争をしないように、子どもが自分で考える人にならなければならぬ、と司書を配属したのが始まりだそうです。岡山県立図書館が貸出数、来館者数で日本一を誇ってきたのは、そういう背景もある気がします。2週間おきに通う県立図書館で、いつか本に囲まれてうたいたいと夢見てきました。現在地に移転して20周年の節目に、めでたく実現することになりました。せっかくなら祖父、金素雲と茨木のり子をテーマにしよう。夢はさらにふくらみました。茨木のり子は夫を亡くした50歳近くから韓国語を学び始めた。その動機について、10代半ば

に読んだ金素雲訳編の『朝鮮民謡選』(岩波文庫)を挙げています。二人のことはの響き、リズムは、もはや私のからだの一部です。必ずいいチラシとポスターをつくってください

と確信していました。霜田さんの絵も最高です。おじいちゃんの二ヒルな感じがよく出てる。がぜんやる気がわいてきました。いいコンサートになるぞ。

## 大好きな図書館で韓国・朝鮮の詩をうたう

### 岡山県民に

愛される岡山県立図書館が、現在地に移転して20年になります。

そして、私が岡山県民になって10年です。

岡山に来て一番驚いたのは果物のおいしさですが、その次に驚いたのは、図書館がとても身近な存在だということでした。小中学校には専属の司書がいて、まちの図書館には人があふれている。私も家から歩いて行ける県立図書館に通うようになりました。

もはやわが家のようにつらつらする場所です。いつもたくさんインスピレーションをもらっています。

大好きな県立図書館の空間でコンサートができればいいなあ。このたびその夢が実現することになりました。

岩波文庫に『朝鮮詩集』など3冊のこした祖父、金素雲と、金素雲訳編『朝鮮民謡選』(同じく岩波文庫)に10代で出会い影響を受けて五十歳近くで韓国語を学び始め、韓国の現代詩を翻訳した茨木のり子。

二人の詩人が訳した朝鮮・韓国の詩を、私がうたい、語ります。韓国の民族打楽器、チマングに合わせ。

2025年は、日韓国交正常化から60年にあたります。政治的に険しい時期もありながら、

日本ではKポップや韓国の映画ドラマが大人気で、韓国では日本の文学がブームになっています。

2つの国の「心」を伝え合おうとした

詩人二人の美しきも激しいこぼれ耳を傾けるたびに、どうぞいらして下さい。

沢知恵

### お申し込み方法

●岡山県立図書館ホームページまたは来館にてお申し込みください。

応募者多数の場合は抽選を行います。1応募につき2名様まで。抽選結果については、申込者全員に9月10日頃に発送するハガキで通知します。申込期間は8月1日から25日(必着)までです。詳細は岡山県立図書館ホームページをごらんください。  
<https://www.libnet.pref.okayama.jp/>



●コモエスタでは、このコンサートの経費のためクラウドファンディングをします。ご寄付をよろしく願います。

### 交通案内

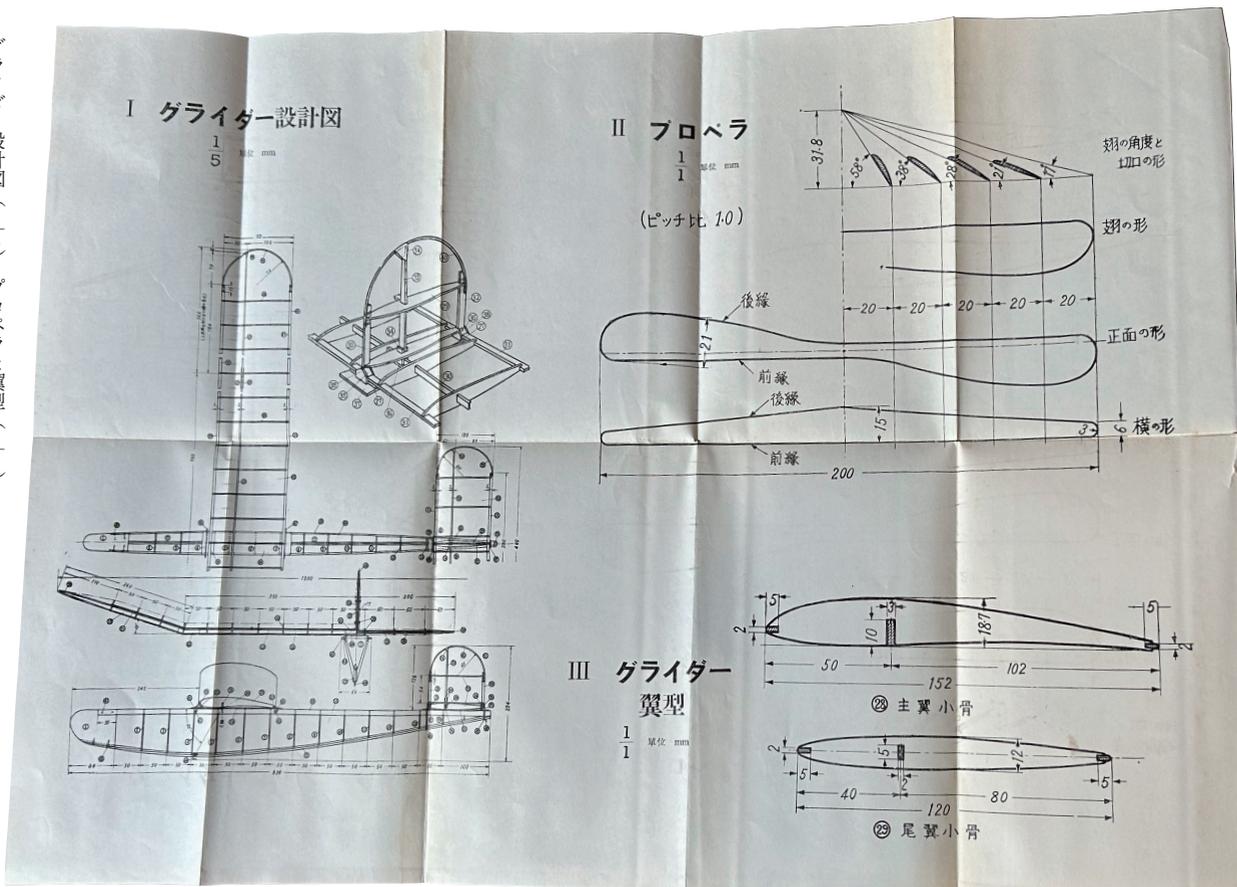
- 路面電車 東山行き「泉庁通り」下車 徒歩5分
- バス停「県庁前」下車すぐ



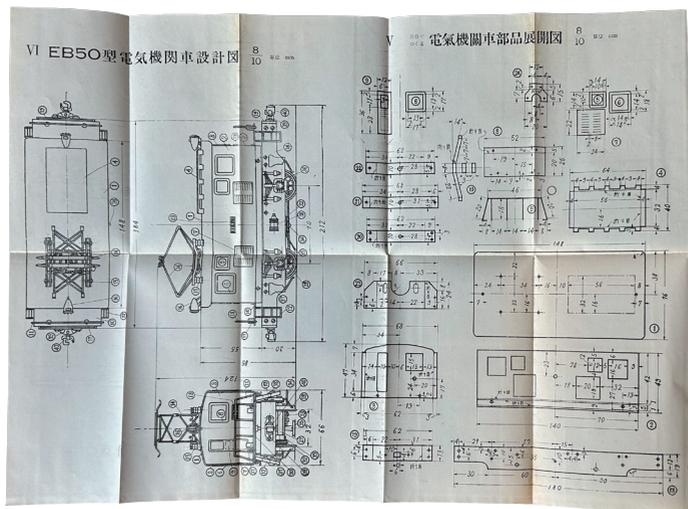
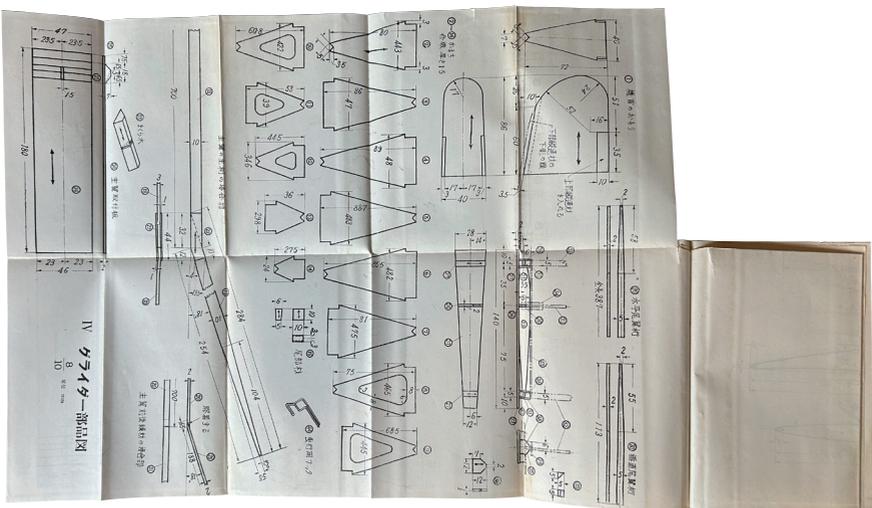
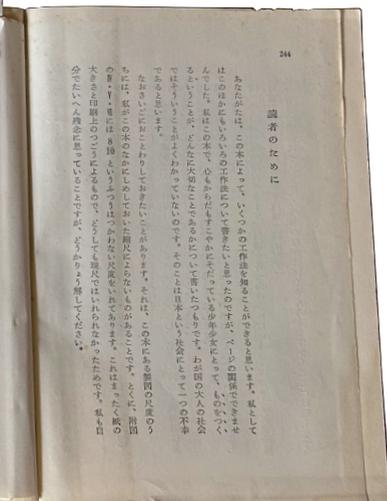
Illustration by Shimoda Ayumi Design by Akahae Haruna and Kusaka Junichi

## 岡山県立図書館開館20周年記念 コリアン・ポエムの夕べ 金素雲と茨木のり子

チラシ・裏



**今月** はページがもらえたので「工作教室」をもう一回、巻末付録の大きな製図を紹介します。折りたたまれて3種類。グライダーが2種 (5分の1の機体、原寸のプロペラと翼。10分の8の部品図)。機関車 (10分の8)。見返しは前後が違う絵柄。この時代にこんなデザインを考えるひとがいる。各巻共通か、または、それぞれの見返しに工夫があるのか、このシリーズの全100巻を見たい。この見返しは星座で、前はベガサス、後はくじら座。フランス語で星座名。ピンクに白抜きの描線と文字。こんな中学生全集が刊行された1952年はどんな時代だったのだろう。附図の前の最後のページ「読者のために」は、こうしめくくられている。「少年少女にとって、ものを作るということが、どんなに大切なことであるかについて書いたつもりです。わが国の大人の社会ではそういうことがよくわかっていないのです。そのことは日本という社会にとって一つの不幸であると思います。」



メモランダム・本のデザイン 25

『工作教室』室靖 その3  
(筑摩書房 / 1952年 / 四六判上製)

目下潤一

# すだれ打つ夕立聞くや老いし猫 渥美風天の俳句②

## 関川夏央 昭和残照

二十六

### 松竹

大船撮影所の待ち時間に渥美清が主演してくれた香具師の口上テレビドラマ『男はつらいよ』の脚本を自ら演出して一九六八年（昭和四三）秋、フジテレビから放映した。

十五歳で家出してテキヤとなった車寅次郎が二十五年後、葛飾柴又の叔父の団子屋「とらや」にひよっこ顔を出す。彼は、自分が美女に惚れられたと信じる粗忽者で、美女を「マドンナ」と呼ぶのは漱石『坊っちゃん』の流用である。

自己都合の「物語」は必ず破綻する。夜の「とらや」の窓あかりを見ながら舎弟分の佐藤蛾次郎に、「俺たちはな、ああいいう小さな幸せに埋没しちゃいけないぞ」とつぶやく寅次郎は、ひと山当てるつもりで奄美大島にハブ獲りに行き、噛まれて死ぬ。

そして視聴率は高くなかったのに、寅次郎の死に抗議が殺到した。売れる企画のなかった当時の松竹は山田洋次に寅次郎を生き返らせてもらい、映画版『男はつらいよ』を五ヵ月後に封切った。客入り好調だったので、さらに四ヵ月のうちに三本つくったが、うち二



本は山田洋次以外が監督した。無茶なスケジュールに腹を立てた山田洋次は、シリーズを終わらせるつもりで七〇年のお盆映画『望郷篇』を撮ると、客入りはさらに伸びた。しかしやめられなくなったこのシリーズが九六年までの二十七年間、四十七作もつづくとは誰も予想していなかった。

すだれ打つ夕立聞くや老いし猫  
雨蛙木々の涙を仰ぎ見る  
乱歩読む窓のガラスに蝸牛

風天

風天・渥美清が肝炎を発症したのは一九八二年、五十四歳のときであった。右肺切除手術で輸血した売血から感染したウイルスが、二十五年後に暴れ出したのである。『男はつらいよ』第三十二作（八三年）備中高梁ロケ

のとき、渥美清は役柄のニセ坊主の衣装のまま仏具店に飛び込んで「田所康男之霊」と本名だけの位牌をつくった。小豆島では、わざわざ尾崎放哉の墓を詣でた。付き人が、渥美さんの知ってる人？ と尋ねると「死ぬまで一度演ってみたい人だよ」とこたえた。

一高、東大法学部を出て保険会社の幹部社員となった放哉は、酒癖の異常な悪さから二度会社をしくじり、妻にも去られた。その後は各地で寺男となり、最後は小豆島の堂守として結核と栄養失調で死んだ。四十一歳であった。「さびしいぞ、ひとり五本のゆびを開いてみる」「入れものがない、両手で受ける」などの自由律俳句を残した漂泊俳人に惚れ込んだ渥美清は、早坂晩にテレビドラマの脚本を依頼したが、遅筆の早坂だから結局間に合わなかった。

肝炎が肝がんに進行、「もう、おれは長いことないよ」と付き人に弱音を吐いたのは九〇年秋の第四十三作撮影中で、アエラ句会最後の出席は九四年六月五日であった。亡くなったのは九六年八月四日、六十八歳であった。誰も知らなかった渥美清の自宅を探して、山田監督や倍賞千恵子が吊問したときには、彼はすでに小さな箱に入っていた。

お遍路が 一列に行く虹の中

アエラ句会での風天最後のこの句は『カラ版・新日本大歳時記』春の章に、虚子、橋本多香子の句とともにとられた。

## 続 ぼくの映画館は家から五分 32

### 伊野孝行

何の予備知識もなしに観たけど圧巻だった！ アフリカ北東部のジブチでフランス外人部隊の副隊長をやっていたガルーの回想で映画は語られる。

ある日サンタンという新兵が部隊に加わる。サンタンはすぐにみんなの人気者になった。ガルーは嫉妬する。嫉妬のあまりサンタンを滅ぼそうとする……というのが話の筋だが、回想があるからわかるもの、ドロドロした関係は映らない。言葉で説明しちゃう映画はつまらないはずなのに、筋立ては一応観客の頭に入れておいて後は映像で勝負！ という信念がある。

部隊にはどこかのんびりした雰囲気がある。街で遊ぶ兵士たちは異邦人。海、太陽、奇岩の風景の中で練り返される訓練。褐色に焼けた兵士たちの肉體。アイロンがけも任務のうち。ガルーはしわくちゃんな服は許さない。どこかミュージカルのような演出を感じる。

ガルーを演じるのはレオス・カラックス『ボンヌフの恋人』のドニ・ラヴァン。ついカラックスの『アネット』（2021）と比べてしまう。全編歌いっぱなしのミュージカルでぐったりした（やたら脱ぐアダム・ドライバールの裸にも胃もたれ。脱がなきゃ好きな俳優）。

絵画は純粋化が進んで抽象画になった時、絵の美味しさまで捨ててしまった。『美しき仕事』は映画の美味しさだけを残して純粋化したような素晴らしい仕事だった。



いの・たかゆき 1971年、三重県生まれ。イラストレーター。第44回講談社出版文化賞、第53回高橋五山賞。著書に『画家の肖像』『となりの一休さん』などがある。テレビアニメに『オトナの一休さん』。最新刊は南伸坊さんとの対談本『いい絵だな』。

伊野孝行個展 ◆「歩いているうちになんとなく」  
長野県軽井沢町・酢重ギャラリー  
2024年10月11日（金）～11月5日（火）  
10:00～18:00 会期中無休

せきかわ・なつお 1949年、新潟県生まれ。作家。代表作に『海峽を越えたホームラン』（双葉社/第7回講談社ノンフィクション賞）『坊っちゃん』の時代』（双葉社/谷ロジローと共作・第2回手塚治虫文化賞）、近著に『人間晩年図巻』シリーズ（岩波書店）。



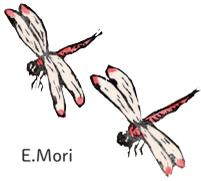


蓋付茶碗 直径11.5cm 蓋を含めた高さ7cm  
 豆皿 直径6.5cm 深さ1.2cm  
 蕎麦猪口 直径7.7cm 高さ6.3cm

ウンベルト Umwelt Textiles & Objects  
 604-0962 京都市中京区夷川通御幸町西入達磨町588-1

#### うおずみ・やすこ

1977年、兵庫県姫路市生まれ。Umwelt Textiles & Objects店主。学生時代にテキスタイルを学ぶため、デンマークへ留学。帰国後、古美術店に勤めたのち2012年、京都・夷川通にUmweltを開く。



E.Mori

沢知恵さんの下北沢ラ・カーニヤの秋公演で、沢さんが朗読した朝鮮民話「ネギをうえた人」がおもしろかった。ネギがあったてに本当によかった！ 岩波少年文庫の同名の本（編・金素雲）を、息子と一緒に読んでいます。朝鮮民話が33編。編者あとがきで、金素雲さんは日本と韓国の「こころのへだて」について書いておられる。息子は沢さんの歌をすぐに覚える。最近「誰も知らない」（作詞・谷口俊太郎 作曲・中田喜直）をくりかえし風呂や布団や通学路で歌っている。オコソトノ、ホッ！（赤波江）

**M**ugiwarade 麦藁手と呼ばれる文様のうつわ。これらは時々自宅で使っているものです。江戸後期から明治にかけて、六古窯のひとつ瀬戸で焼かれました。一般的に、縦の縞文様をうつわ全面に施したものを麦藁手と総称します。瀬戸地方では徹底した分業制度だったため、絵師は日々繰り返し縞文様を描いたはずですが、反復の中で、人の手だからこそ生まれる線の強弱が麦藁手最大の魅力となっています。それに加え、心地よいと感じる色のバランスを発見したとき、思わず手に取ってしまいます。

骨董の目利きや蒐集、装幀でも著名な青山二郎（1901～1979）は戦前「むぎわら・くらぶ」という骨董同好会をつくったそうです。その命名のもとになったのは、古染付麦藁手向付でした（縞模様は呉須一色で、グリッド状のモジュールとして縦横にあしらわれています）。文士や古美術店の店主からなる同好会のメンバーは皆、同手の向付を持ち、お茶をすすっていたというエピソードが残っています。中国・明朝末の景德鎮、民窯生まれの古染付には独創的なデザインが数多くあるのですが、一説によると麦藁手の意匠は古染付から日本の瀬戸や伊万里へもたらされたとのこと。そして四百年にわたって絶えることなく、ずっと作り続けられる定番となりました。

9月24日に岡山県立図書館の沢知恵さんのコンサート「コリアン・ポエムの夕べ 金素雲と茨木のり子」へゆく。図書館にピアノを搬入できないので、彼女のアカペラと李昌燮（イ・チャンソプ）さんのチャング。素晴らしかった。往きの京都駅で新幹線から見下ろすと、修学旅行生が列をなして駅に近づいてくる。みな上は夏の白シャツ下は黒のズボンがスカート。制服だ。制服は人間を記号化する。区別がない。だから戦う兵士は制服だ。ちがいは集団の区別だけ。スポーツのユニフォームは試合のときだけ。生徒たちが学ぶのに個性はいらないのか。引率の先生も白シャツ黒ズボンだった。（日下）

今月のあとがき



左から1954年3月号、1963年7月号、1964年12月号

これは東京都東村山市のハンセン病療養所多磨全生園にかつてあった学校、全生学園（全生分教室）の跡地の片隅にある記念碑です。1979年に最後の卒業生二人を岡山県長島愛生園の邑久高校新良田教室に送り出し閉校になりました。自らも入所者であり、補助教員を務め美術教育に当たっていた氷上恵介（1923-1984）の発案で、卒業生と職員たちによって作られました。コンクリートの土台上的壁面に4センチ×6センチの色様々な陶板を貼り付けています。目を近づけると模様が刻まれている、ガラスを焼き付けてあったり、文字や印を押してあったり、焼き物として変化を出そうと苦心のあとが伝わってきます。背面には校舎のレリーフが嵌められ、沿革や生徒数、「出発」の文字は卒業生の書であることなど記されています。氷上は「タイルの一枚一枚は一人一人の生き方を表現したものであり、又関係者の子どもに接してきた熱い思いを籠めて周囲を固めたものである」と回想記「感傷旅行」に記しています。画家であり、小説を書き、芝居の演出、園内誌の編集、陶芸に取り組むなど様々な文化活動を行いつつ、20代から60歳で亡くなるまで園内に生きました。

ハンセン病資料館でこの春から夏にかけて開かれた「絵どころでつながる一多磨全生園絵画の100年」展に何度も

足を運びました。戦後のある時期にはかなり盛んであった絵画活動、しかし作品そのものはあまり残っておらず、記録や印刷物で当時をしのびます。個人的に印象的だったのが、園内誌『多磨』で見ることのできる「作業場」「図書館」「公会堂」「婦人会館」など、氷上恵介が描く園内風景スケッチ。1960年代前後頻りに表紙を飾っています。

資料館の図書室で『山桜』『多磨』『始良野』『芙蓉』『菊池野』といった各地の療養所の園内誌に掲載された彼の小説作品を読むことができます。病により自分の容貌が変わっていく苦悩、つかのま通った写真学校、療養所内での女性との出会いと別れ、東京での唯一の肉親である兄との関係など、フィクションを通して氷上の生な青春時代をうかがい知ることができます。戦後治療薬プロミンの登場で社会復帰して行く人も増える中、故郷の家族が離散した氷上に帰る場所はなく、後半生は全生学園で子供たちを見守り育てることに注力していたようです。

この碑について「秘かにこれを自分の墓碑と想おう、貧しく生きてきた自分の存在の証しのためのモニュメントとしよう」と綴っています。碑名は当初「ここに学校があった」を考えていたそうです。“ここに私がいた”の思いも込められていたのだらうと感じました。

筒口直弘  
カメラと歩く  
7  
記念碑に会う



つづく  
つづく  
1971年生まれ。カメラマン。9月に「芸術新潮」の取材で京都に残る泰山タイルを撮影。建物が失われ取り外されたものも、美しい色と輝きを保っていた。

## 息

子が9月で7歳になった。誕生日は、出産のさまざまなことを思い出す。

わたしは、息子の産声をちゃんと覚えていない。異常があつて泣かなかつたわけではなく、正常に産まれてちゃんと泣いたはず。この耳で、確かに聞いたはず。だけど、思い出すとしても思い出せず、笑ってしまう。

代わりに覚えていたのは、出産後、分娩室に音楽が流れていたこと。それが宮沢賢治の「星めぐりの歌」だったこと。宮沢賢治の詩に祝福されていると思つたら、涙が出た。分娩室の隅に置かれたラジカセから流れる音楽は、ポリウムが大きすぎるような気がしたけど、産後のわたしの聴覚が、過敏になつていたのかもしれない。

長崎県の西の端、小さな街の産婦人科で出産した。2階建ての小さな病院。病院のまわりには、田んぼしかなかった。

産科医は男の先生がひとりだけ。もし帝王切開をすることになれば、大病院から麻酔医が車をとばしてやってくるらしい。

看護師と助産師はたくさんいた。みんな陽気で、ハキハキとよくしゃべる。先生だけがいつも無表情で、なかなか目を合わせてくれない。必要なことだけ話したら、さっさとなくなっていく人だった。

陣痛のあいだ、うまく力めずへ口へ口にな

っているわたしに「あなた、カミ方が下手ですよ」と先生は言い放つた。無表情で。わたしは心の中で「先生、出産したことなくせに！」と悪態をついた。

結局、頭がうまく産道に入っていないと判断され、帝王切開で息子は産まれた。麻酔医の先生は、ほんとうに猛スピードでやってきて、わたしの腰に麻酔を打つた。

産後の入院中、お腹の傷がひどく痛んだ。ゆっくり休む時間などなく、休めないことが一番つらかった。母子同室が基本方針の病院だったけど、夜だけは息子を新生児室で預かってもらい、ひとりで眠つた。

病院のへい、服は白の王子様。  
入院中、服を着せられていた...



## 文と絵 赤波江春奈

3時間毎に起き、わが子に授乳しに行く。真夜中の廊下を、手すりにつかまりながらゆっくり歩く。足を少し前に出すだけで、傷がビリビリ痛い。疲労で全身が痛い。つらい。

眠りたい。つらい。新生児室の方から、赤ん坊の泣き声が聞こえる。数人の赤ん坊が一斉に泣いているのに、どの声がわが子の泣き声か、遠くからでもすぐに分かる。やっぱり産後は、聴覚が過敏になるんだろうか。泣き声に身体がひびかれていく。自分の痛みなんて、どうでもよくなつていく不思議。

現代医療の力をたくさん借りて出産したわたしでも、こうしてあつという間に「母」になつてしまうのか。少し前まで、東京で働いていたわたし、デザイナーとして働くわたし、うすくなつて、遠くなつていく。

いつも無表情の先生は、赤ん坊を見るときだけは別人のようになった。顔全体がふやふやになり、目にはやさしい光が満ちていた。先生は、赤ちゃんが大好きなのだ。

退院の日、「よくがんばりましたよ」とわたしに言つて、先生はすこし笑つた（ように見えた）。数年前、先生の体調不良を理由に、病院は閉院した。

ときどき思い出すのは、分娩室の壁紙の青い星々。陣痛中に聞こえた雷の音。病院をかこむ稲穂の黄金色。授乳室のレースカーテン越しの、夜明けの秋の空。